

(別紙)

令和5年度(令和4年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 埼玉県

【基本情報】

フリガナ	サイタマリョウイクトモノカイ
法人名	社会福祉法人埼玉療育友の会
フリガナ	ヤマハトヨリイ
事業所名	山鳩よりい
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
43.7人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: 移乗介護 排泄支援 入浴支援
 移動支援 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) ①コールマット・コードレス、②眠りSCAN (①3台、②15台)

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換		0件		0人時間	
	2 排泄介助・支援		0件		0人時間	
	3 生活自立支援(※1)		0件		0人時間	
	4 行動上の問題への対応(※2)		0件		0人時間	
	5 その他の直接介護		0件		0人時間	
間接業務	6 巡回・移動	1人	243件	2,918件	20分	973人時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0件		0人時間
	8 見守り機器の使用・確認			0件		0人時間
	9 その他の間接業務			0件		0人時間
			243件	2,918件	20分	973人時間

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

夜間巡視:1日8回×30.4日

<※2>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

1回の巡視時間 20分(測定結果による)

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換		0件		0人時間	
	2 排泄介助・支援		0件		0人時間	
	3 生活自立支援(※1)		0件		0人時間	
	4 行動上の問題への対応(※2)		0件		0人時間	
	5 その他の直接介護		0件		0人時間	
間接業務	6 巡回・移動	1人	243件	2,918件	15分	739人時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0件		0人時間
	8 見守り機器の使用・確認			0件		0人時間
	9 その他の間接業務			0件		0人時間
			243件	2,918件	15分	739人時間

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

夜間巡視: 1日8回×30. 4日

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

1回の巡視時間 (全台数22台:13分、5年度導入15台では15. 2分) (測定結果による)

年間業務時間数想定削減率(%)

24.0%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

夜間巡視の所要時間を実際に測定したところ、予想より良眠している利用者が多く、「眠りSCAN」によるモニター確認で巡視が対応できたことから訪室件数が減少した。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

- ①「コールマット」の設置により、利用者の離床やベッドからの落下をいち早く把握し、迅速かつ的確に対応することができた。
- ②「眠りSCAN」により、心拍数や脈拍等をワーカー室のディスプレイで利用者の異変をいち早く把握でき、的確な対応をすることができた。
- ③ これまで、夜勤帯で30分ごとに全室を定期訪室し、利用者の状態を確認していたが、訪室により覚醒したり安眠を妨げてしまうことがあったが、これらのロボットの活用により、リスクの少ないと思われる利用者について、モニターによる確認により必要に応じた訪室間隔とすることができ夜勤者の負担軽減となるとともに、空いた時間をリスクの高い利用者振り分けられ、充実したケアと、職員の精神的負担の軽減が図られた。

(5)今後の課題

モニターによる確認が行え安心感が増す一方、利用者によっては近くでの観察が必要となる場合があり、利用者それぞれのリスクや必要性を考慮した夜間巡視の方法が求められる。

(6)気づき等について

身体状況(拘縮や変形)により現在の「眠りSCAN」では、適応対象外となるケースがあった。
適用対象の範囲が広がるよう機器の改善をお願いしたい。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。